

C S 初年度の取組を振り返って 第3回全体会（2月18日）



2月18日（火）18：30より、矢吹町文化センター小ホールにおいて、矢吹町学校運営協議会第3回全体会が開催されました。

協議では、今年度の年間活動報告、各部会からの活動報告、意見の申出、評価に続き、次年度の基本方針の承認、組織案、年間計画案、テーマなどについての方向性が確認されました。

今年度は、「矢吹町学校運営協議会」の立ち上げに当たり、昨年度の「コミュニケーションスクール推進協議会」での話し合いをもとに進めてきました。全体会3回、各部会5・6回を核に、各部会ともテーマ『元気なあいさつができる子どもを育てるには』に基づいた具体的な取組が行われました。日中開催の部会では、授業参観などをとおして、子どもたちの学校生活の様子を実際に見ていただきました。

また、第2回全体会では、部会の枠を越えた『熟議』が行われ、活発な意見交流が行われました。特に他部会での取組のよいところを取り入れ、部会で「C Sだより」を発行するなど、共に学び合う姿が見られました。小学校部会では、幼稚園と小学校とが連動して同じ取組を実践し合うことで、幼小連携が深まった事例もありました。

地域によって事情が異なりますが、次年度は発達段階に応じて、テーマの達成に向けての到達目標を設定するのもよいのではないかという意見も出されました。

地区代表委員の方からは、以下のような感想・ご意見をいただきました。

- 全体会3回・小学校部会6回・中学校部会5回の計14回、参加した。幼・小・中の流れを把握できた。子どもたちの変容を見るには、最低必要回数だと思う。
- 中学校のよい変化を見ることが出来てよかったです。部会以外の時でも、気軽に参観できるシステムがあるといい。
- 幼・小・中全部に行くことが出来て、楽しませてもらつた。自分の家には子どもはないが、学校に関係のないものが委員になつて、まっさらな立場で意見を述べることができたことはよかったです。地域の一員としてこれからも関わりたい。
- 委員の負担を考えると、回数はこれ以上増やすことは出来ない。学校の負担も大きい。



今後は、学校内での取組を、地域に広げていくための具体的なアクションを工夫していくことが大きな課題です。区長さん方への説明の機会を持ったり、『広報やぶき』への取組の掲載をしたりするなど、さまざまな機会を捉えてC Sの活動への理解を促進するためのアクションを行うことが求められています。

委員のみなさま方には、日中・夜間の開催とも、大変お忙しい中にも関わらず、C Sの取組に熱意を持って、取り組んでいただきまして、本当にありがとうございました。

なお、今年度をもちまして退任される保護者代表委員の方には、心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。



幼稚園・小学校・中学校では、体制づくりが進められました。令和2年度の学校経営の基本方針も承認されました。

学識経験者・企業関係者・保護者代表・地域代表委員からも、次年度に向けての建設的な意見等が活発に出されました。

学識経験者（佐久間邦友委員）より

- 部会の開会回数については、矢吹町にとって「最良」と思える回数に。
- 区毎の会に出向いて、CSの取組について説明するのも手。
- CSは一定の権力を持った組織。それぞれの立場からうまく活用するとよい。
- 次年度は、予告なしの学校訪問等もできたら実施してみたい。
- CSの取組は即効性のあるものではない。「心地よい負担感が、心地よい快感」となるように。



あいさつについてのアンケートより（保護者のからの声）

あいさつ+スキンシップを心がけました。
目と目を合わせてあいさつすることで、
その日の体調もチェックすることができました。

あいさつをする時には、
ワントーン声を上げてする
ようにしています。

たとえ親子げんかをしているときでも、「いってらっしゃい」、「おはよう」、「おやすみ」は言うようにしています。

※部会での取組について、保護者のみなさまの意識が高まってきていることが分かります。

中畠小学校区CSだよりより (委員の方の声)

私にとってあいさつとは、新しい一日のスタートです。あいさつには「愛」があると聞いたことはありませんか。愛を込めてあいさつをすると、気持ちよく一日を迎えることができます。
あいさつは一生行うものです。あいさつについてもう一度考え方を直して見ましょう。あいさつから自分の人生を変えましょう

学校教育ボランティア募集中
CSの取組をさらに充実させていくための「学校教育ボランティア」の方々を募集しています。「学校の応援団」として、さまざまな分野において協力していただける方を募集しています。
委員の方からのお声かけをよろしくお願いいたします。